

♥♥♥♥♥ことばを育てる親の会北海道協議会

♥♥♥♥♥HSK ♥♥♥♥♥

HSK 会報

昭和48年1月13日第三種郵便物承認 HSK通巻第642号

(毎月10日発行) 2025年9月10日発行

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会 (HSK)

編集人 特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会 会長 山本光子

連絡先 〒060-0041 札幌市中央区大通東6-12

札幌市立中央小学校ことばの教室内

TEL011-241-2533 定価100円

♥♥♥♥♥ 2025. 9. 10 ♥♥ No. 191 ♥♥♥♥♥

「依存」のネガティブイメージからの解放

～協議会が目指すあたたかな関係性～



NPO 法人 ことばを育てる親の会北海道協議会

理事 瀧澤 聡

2025年5月17日(土)、札幌市の北海道立道民活動センター(かでの2・7)にて、令和7年度「特定非営利活動法人ことばを育てる親の会北海道協議会」定期総会が開催されました。総会終了後には、北海道教育大学札幌校の平野直己先生を講師にお迎えし、貴重なお話をうかがいました。

とりわけ印象深かったのは、東京大学の熊谷晋一郎先生のお言葉を引用しながら語られた、「依存」という言葉への新たなまなざしでした。

「自立とは、自分ひとりの力で生きることではない。むしろ、他者と依存し合いながら社会の中で生きていけることこそが、真の自立である」——そうした定義を聞いて、皆さんはどのように感じられるでしょうか。

私たちの社会では、「依存」と聞くと、どうしても後ろ向きな響きを連想しがちです。アルコール依存、薬物依存、ギャンブル依存……。いずれも「自立できない人」の代名詞のように語られがちです。でも、果たしてそれだけが「依存」なのでしょうか。

私たちは、実に多くの見えない手に支えられて生きています。肉や魚、野菜や果物、あるいはお菓子に至るまで、その一つひとつに、誰かの手仕事と願いが込められています。誰の人生にも、「依存せざるを得ない関係性」が折り重なっており、それを断ち切っては生きられません。依存とは本来、「生きることのかたち」そのものなのかもしれません。依存できることは、信じられる誰かがいるということ。依存し合える関係は、互いに信頼を育んでいる証でもあります。だからこそ、私たちの協議会も、「依存されてもよい場所」、むしろ「安心して依存できる場」として、あり続けたいと改めて思いました。

ことばに障がいのある子どもたちと、その親御さんたちが、時には思いきり肩の力を抜いて、「ここに頼ってもいいんだ」と心から思えるような、そんな場所でありたい——それが、私たち協議会の願いです。これまで私たちは、その思いを胸に活動を重ねてきました。これからは、ただ“在る”だけではなく、“支えられる場”として、より確かなかたちで豊かに育てていきたいと強く願っています。

誰かの不安や孤独が、ほんの少しでもやわらぎ、必要なときにはそっと寄り添える。そんな信頼のよりどころとして、私たちの協議会は、さらにその輪を広げ、深め、地域の中に根ざしていきたいと思ひます。依存とは、弱さの証ではありません。むしろ、信じ合い、委ね合える関係を築くための、人としての力です。私たちは今後、この協議会が、そうした“信頼の依存”が許される、そして歓迎される場所として、多くのご家庭の光となるよう、実践と対話を重ねながら、真摯に、力強く発展させていく所存です。



各地区親の会の皆様へ

NPO 法人 ことばを育てる親の会北海道協議会

理事推薦のお願い

会長 山本 光子

今年の夏は暑い日が多かったので、皆様方には暮らしや活動に苦慮されたことと思ひます。

さて、北海道協議会では、現在、会長を含めた理事5名と数名の事務局員（ことばの教室の教員・保護者）で事業を運営しておりますが、各地区親の会の状況や当協議会へのご意見やご要望の把握に限界もあり、企画運営上も習慣化しつつあります。さらに、理事5名のうち保護者は2名しかおりません。子どもたちや保護者たちの現状を知る上で各地区の親の会との連携が不可欠です。当協議会としても、各地区の親の会のご事情が多々あると承知しておりますが、理事推薦のご協力をいただければありがたいと存じます。

ここ近年は、理事会は会議に関わる時間等を軽減化し、リモートで開催しており、理事になられた方のご負担も少ないのではと思ひます。何卒、全道のことばやコミュニケーションで苦勞している子どもたちの現状の改善や未来のあり方の実現のためにお力を貸していただきたくお願い申し上げます。

改めて、理事推薦についての「ご依頼」を各地区親の会にお送りいたしますので、ご理解とご検討をいただきますようお願いいたします。



令和7年度

全国 理事会・研修会・総会 開催報告

全国ことばを育む会の総会に北海道ブロック理事の瀧澤聡理事が出席しました。2日間にわたる貴重な会議や研修会の様子を綴っていただきました。

NPO 法人ことばを育てる親の会北海道協議会
理 事 瀧 澤 聡

6月7日(土)理事会・研修会

午後2時から2時50分まで第3回理事会を開催しました。理事6名、監事1名、事務局2名が出席し、翌日の総会運営について最終確認を行いました。

今岡理事長からは、ハズブロジャパン社への会員感謝状伝達、文部科学省・こども家庭庁への岩手大会準備状況報告、病障連総会開催による他団体との協力関係確認などの活動報告がありました。

決算については若干の赤字となりましたが、主因は前年度総会の旅費支出増によるものです。岩手大会分担金の集金に不安がある中、本会の支援策として保有パンフレット「両親指導の手引書」の一部を岩手県に寄贈し、その販売収益を活用してもらう提案が承認されました。また、大会宣言者および文科省要望陳述団参加者として水野理事が選任されました。

午後3時から4時30分まで全国研修会講演会を開催しました。本田幸子さん(元千葉県親の会会長)による「わたしの子育てと親の会」をテーマとした講演では、口蓋裂のお子さんを育てられた33年間の体験を通じて、出産時の衝撃から手術、言語指導まで率直にお話しいただきました。親の会の意義として、個人では言えないことも団体の力で行政に働きかけができること、先輩の成功・失敗体験を共有することの大切さを強調され、障がいの種類は違っても親の思いは共通であることを実感する貴重な機会となりました。

6月8日(日)総会



午前9時30分に開会し、会員25名中、本人出席者9名、委任状4名、書面表決4名の計17名により総会が成立しました。

今岡理事長の挨拶に続いて議長を選出し、議事に入りました。第1号議案(活動報告)と第2号議案(活動計算書)を一括審議し、専務理事から説明後、質疑応答を経て田辺監事からの監査報告を受け、承認されました。続いて第3号議案(活動計画案)と第4号議案(活動予算書案)も一括審議し、質疑応答の後に承認されました。第5号議案および付帯決議案についても同様に審議され、会場参加者とウェブ参加者からの質疑に執行部が丁寧に応答し、すべて承認されました。

議事終了後、大会実行委員会事務局から岩手大会に向けての詳細な報告が行われ、午前11時に総会を終了しました。引き続き午後12時30分頃まで交流会を実施し、会場参加者とウェブ参加者が一体となって活発な意見交換を行い、充実した時間を過ごすことができました。



臨床研修会報告

道言協研究部 赤間 志野
(長沼町立長沼小学校ことばの教室)

☆ 第152回言語障害臨床研修会 親の会共催 (動画配信)

今回は「難聴・言語障害教育において大切にしたい視点」と題し、国立特別支援教育総合研究所 研究企画部上席総括研究員(兼)部長(兼)西日本ブランド広島オフィス長 牧野 泰美氏にご講義いただきました。

長年にわたり、言語障害教育、言語獲得、コミュニケーション障害とその支援に携わってこられた経験を通し、通級・個別の良さ、子どもや保護者と関わる際の大切な視点、難聴・言語障害教育担当者の果たす役割などについて、事例を交えお話しいただきました。

担当者は、子どもが「話したい」「一緒にいて安心する」「そばにいてくれるだけでいい」という存在になれているか、子どもの困っているところ・課題ばかりに目を向けるのではなく、その子が今持っている力やその子にしかない良さを見つめることができているか、子どもや保護者と悩みを共有し、「ぼくには『これ』がある!」というよりどころを見つけ、支えていくことの大切さなどについて伝えていただきました。

牧野先生が子どもをあたたく見守り、寄り添い、支えてきた視点は、保護者の方や担当者だけではなく、子どもと関わる全ての人にとって大切であると再認識できた講義でした。

動画配信は7月18日～8月7日までの期間で行い、233名の方に視聴していただくことができました。その内親の会からは18名、非会員の方は4名でした。

2. 子どもや保護者と関わって
いくうえで大切な視点

- 大人(教師)の見方が追いつめることも!
- 役立つ、喜ばれるということ
- 子どもの感性をまるごと..
- 本当に子どものよさが見えているか?
- 子どもとの関係は?

<アンケートより抜粋>

- ・子どもに寄り添ったあたたかいお言葉が身に沁みました。先生と話したい、一緒にいたい、ほっとするような関係を目指してがんばろうと思います。特に「殻は破れないなら殻の中に入れてあげて、殻の中を豊かにしてあげる」という発想が目から鱗でした。ありがとうございました。
- ・子どもとの関わりを改めて知ることができた。我が子をもっとプラスと捉えていきたいと思えた。
- ・いつも牧野先生のお話に勇気づけられ、自分たちのやっていることがこれで良いのだと安心させてもらえます。通級でできたことを通常級で汎化することばかり求められますが、通級の時間そのものが、大事なその子にとっての「いま」なんだと再確認できました。今回のような、何を大事にしたらよいか分かる研修は、貴重だと思いました。
- ・子どもや保護者との関係のあり方を今一度振り返ることができた。特に子どもと同じ気持ちになるという共感性を持てるかどうかという内容が心に残った。
- ・担当者としての重要な3つの役割や、子ども・保護者と悩みを共有し、寄り添い支えられる担当者であることの大切さを学ぶことができました。

今後も、保護者の方や担当の先生方の参考になる研修を企画していきたいと思えます。

地区紹介



千歳地区ことばを育てる親の会

千歳地区のことばの教室は、千歳市立緑小学校と千歳市立北陽小学校に設置されています。JR千歳線を挟んで北側（鉄北地区）と南側（鉄南地区）に分かれて、鉄北地区を北陽小、鉄南地区を緑小が担当しています。親の会の担当校は各校2年持ち回りで、昨年度と今年度は北陽小が担当校となっています。

今年度の親の会主催事業は、「夏のお楽しみ会」「親の会文庫」「茶話会」「赤い羽根共同募金」「冬のお楽しみ会」となっています。夏と冬のお楽しみ会は緑小学校と北陽小学校それぞれで行いますが、その他の事業は全体で開催しています。

今回は各校で行われた「夏のお楽しみ会」を紹介します。

緑小



緑小では、ボール送りや風船バレーのゲームなどを楽しんで行いました♪（7月12日開催）



北陽小

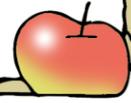


北陽小では、O×クイズや魚釣りゲームなどを楽しんで行いました♪（7月5日開催）



全国ことばを育む会創立 60 周年全国大会岩手大会

令和7年8月9（土）～10日（日）



全国大会に参加して

NPO 法人ことばを育てる会北海道協議会

副会長 齋藤 寛子

令和7年8月9日・10日の日程で行われた、NPO 法人全国ことばを育む会の第30回全国大会岩手大会の第1日目に参加して参りました。

いわて県民情報交流センター アイーナの施設や建築物としてのすばらしさや、岩手県ことばを育む親の会の受付などオペレーティングのスムーズさ、全国各地からの参加者、各支部の教育委員会の方の参加、そのどれにも圧倒されたのですが、何より、岩手県各支部から会場を埋め尽くすほどの保護者や先生の参加人数に感激しました。ご参加の方、ひとりひとりが自分の時間を割いて、親の会の大会のために使うことができる、その親和性や信頼感を感じ、とても羨ましいと思いました。同時に、北海道協議会が大切にしなければいけないことも見えたような気がしました。

記念講演では、児童文学作家の柏葉幸子さんのファンタジーに懸ける思いを感じることができ、わたしにとって生涯の宝物になったようなお話でした。全体学習会では、子どもたちの素直な声を紹介する貴重なVTRにはじまり、それぞれの立場から登壇されたパネリストの皆さんのお話を伺うのは得難い経験となりました。そのほか、休憩時間の合間をぬって、谷口恵美子相談役から道外の理事の方や全国でご尽力されている方を紹介していただき、これまでの歴史的なお話を伺うこともできて、とても有意義な時間を過ごすことができました。

改めまして、第30回全国大会岩手大会が盛会のうちに閉幕されたことを心からお慶び申し上げます。短い時間でしたが、心が動かされた大切な思い出となりました。ありがとうございました。



北海道協議会から
全国大会へお祝いの
電報をお送りし
ました。

コロナ禍後初の NPO 法人全国ことばを育む会大会等に参加して

NPO 法人ことばを育てる会北海道協議会

理事 瀧澤 聡

(全国ことばを育む会 北海道ブロック理事)

私は北海道ブロック理事として、令和 7 年 8 月 9 日(土)・10 日(日)の二日間、「全国ことばを育む会創立 60 周年記念 第 30 回全国大会 岩手大会」「岩手県ことばを育む親の会結成 60 周年記念 第 52 回盛岡大会」に参加しました。会場は盛岡市の「いわて県民情報交流センター アイーナ」でした。参加人数は、初日が 377 人、二日目が 233 人でした。

この大会は、全国ことばを育む会と岩手県の親の会がともに 60 周年を迎える節目に開催されたもので、これまでの歴史を振り返りつつ、未来に向けて新たな歩みを確認する機会となりました。テーマは「子どもの成長を支える親と先生、そして関係する人々が、共に学んで語り合うつながりを今こそ」。ことばや聞こえに困難を抱える子どもたちが、幼児期から大人になるまで切れ目なく支援を受けられる社会をめざし、親と先生、地域がもう一度つながり直すことの大切さが込められています。

初日は開会式に続いて、児童文学作家の柏葉幸子さんによる「読み聞かせの楽しみ」と題した記念講演が行われ、言葉の世界に親しむ豊かさが語られました。その後はコーディネーター1名と5名のパネリストによる学習会が開かれ、ライフステージに沿った支援の在り方について活発に意見が交わされました。夜には交流会も催され、110 名以上が参加して親睦を深めました。土谷さとる・京子ご夫妻も参加され、NPO 法人全国ことばを育む会顧問として、土谷氏と菊地義勝顧問のお二人が乾杯のご発声をされました。

二日目は午前中に四つの分科会が開かれました。テーマは「子育て期の親子の関わり」「自立に向けた歩み」「大人になったときの社会参加」「親の会の継続」で、私は第 4 分科会の運営責任者として参加しました。どの分科会も、子どもの発達を支える方法や、親の会や地域のつながりをどう再生していくかを具体的に考える時間となりました。特に印象的だったのは、岩手県の親の会の方々と、ことばの教室などで子どもを支える教員の方々との連携が随所に見られたことです。その協力関係は実に自然で力強く、連携することの素晴らしさと重要性を改めて認識させられました。

全体を通じて、大会は三つのことを目指していました。第一に、子どもがどの時期でも必要な支援を受けられる「切れ目のない支援」の実現。第二に、特別支援教育の仕組みをさらに充実させること。第三に、近年弱まりつつある親の会のつながりを再生し、新しい時代にふさわしい「支え合う場」を築くことです。

コロナ禍による交流の停滞や活動の縮小をふまえ、大会では改めて親の会の原点である「慰め合い、励まし合い、共感し合う」ことの意義が確認されました。子どもを中心に据え、親と先生、地域の人々が心を寄せ合いながら支援を考えることの大切さが、改めて示されたといえます。

今回の大会は、子どもたちの成長を支えるために、私たち大人がどのようにしてつながり直すかを全国に発信する貴重な場となりました。





ことばの教室 ほっと相談室～あなたは、ひとりじゃない



8月20日(水)に道協議会主催の「ほっと相談室～あなたは、ひとりじゃない」がZoomで開催されました。

この相談室は、ことばの教室の仕事に携わっている先生たちが困っていることや悩んでいることを気軽に相談し、情報や経験を共有する場として企画したものです。誰もが飛び込んだ世界に感じる理想と戸惑いを現場のリアルとして“ことば”にし、安心して新たな一歩を踏み出せたらという願いで立案しました。

この相談室では、最初に守秘義務・否定しない・話したくないことは話さないというルールを確認し、ファシリテーターの瀧澤聡理事が進行を務め、準ファシリテーターの太田とともにことばの教室の先輩としての経験や助言を話すという形で進行しました。

まず、二人の理事が現役時代の悩みや失敗談を語りました。瀧澤理事からはこの世界に入った時の孤立感や支援感のギャップを話し、太田からは子どものみとりと指導の難しさ、保護者や校内外の先生たちへの説明に苦慮した経験を話しました。

道内各地から参加された6名の先生たちから指導上の戸惑いや子どもとの関わりで困っていることが語られました。質問に触れながら先輩の二人が経験を語り参加者も意見を交流し、みんな、同じことで悩んでいたんだ、困っているんだという思いを共にしました。悩むことを通して子どもたちに学び寄り添い、安心され信頼される関係になっていくことを共有できました。

今後もこのように自由に語らい仲間同士で支え合っていけるような相談の場を計画していきたいと思います。



(文責:理事 太田 真知子)



令和7年7月26日(土)
12:30 ~ 15:30



- ・次期理事の選任方法について話し合われました。
- ・全道大会について話し合われました。引き続き、継続審議となりました。
- ・会報の送付先を確認しました。
- ・9月発行予定の会報191号の内容と印刷方法について検討しました。
- ・理事会開催時のzoom運用方法について話し合われました。
- ・新しいホームページの作成について話し合われました。
- ・ボランティア活動支援事業に応募することになりました。



- ・令和8年度の総会は、5月16日(土)に開催予定となりました。
- ・道言協函館大会における手引書販売について、確認をしました。
- ・全国大会や事業経過について共有しました。



事務局より

- 地区研修補助(ちょっとだけ元気を!プロジェクト)は、美瑛地区から応募があり決定しました。あともう1地区の応募枠があります。ぜひご検討ください。
- 地区分担金の送金先は次の通りです。総会資料に同封した赤色振込票をお使いください。(ゆうちょ銀行のATMを利用して、通帳またはカードで振り込む場合のみ手数料が無料となります。現金による振込等の場合は手数料が発生しますので、ご負担をお願いいたします)
- **個人、法人、団体の寄付をお願いしています。**
当会の活動の趣旨にご賛同いただける方のご協力を呼び掛けています。送金の場合は振込用紙の通信欄に「寄付」と御明記ください。よろしくお願いいたします。

郵便振替	口座番号 02790-5-□□44186 加入者名 NPO法人ことばを育てる親の会
郵便貯金 口座振込み	記号 19030 番号 32430171 口座名 特定非営利活動法人ことばを育てる親の会 北海道協議会
銀行	北洋銀行 北7条 支店(店番 312) 口座番号 3527965 受取人 特定非営利活動法人ことばを育てる親の会 北海道協議会 会長 山本 光子



その他

- 3ページに記載されている本田幸子さん(元千葉県親の会会長)の講演は、9月いっぱいには視聴することができます。会員の方が対象です。ご希望の方は道事務局より各地区事務局あてに視聴方法をお伝えしていますので、地区の事務局にお問い合わせください。
- 「会報」の記事についてのご意見、ご感想をお寄せください。「図書紹介」でお薦めの本がありましたら、ご投稿をお願いいたします。

HSK 会報 昭和48年1月13日第三種郵便物承認(毎月10日発行)

2025年9月10日会報191号(HSK通巻642号)

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

編集人 特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会 会長 山本 光子 定価100円(会員分は会費に含む)

連絡先 〒060-0041 札幌市中央区大通東6-12 札幌市立中央小学校ことばの教室内 TEL 011-241-2533